

欠席委員からのコメント

福井県中小企業家同友会 代表理事

株式会社WALLESS CEO 山内 喜代美 氏

- ・ 「過去1年間に地域文化（支援）活動に取り組んだ企業の割合」が6割程度との結果（資料1 7）のとおり、取り組みたいという気持ちを持っている企業は多い。しかし、関わり方の度合いにはかなり差があると思われる。
- ・ 県が文化芸術に関する様々な取組みをしているということがわかったが、残念ながらその情報が企業に届いていない。例えば、何かに「参加してください」「寄附してください」と呼びかける場合、そこに至る過程（誰がどのようにつくっているか、どんな苦労があるか）をしっかりと広報することで、「応援したい」という気持ちが芽生える。
- ・ 中小企業は行政とのつながりが薄いので、直接、意見交換できる場を設けるなど情報を届ける機会をつくってはどうか。
- ・ 障がい者を持つ方の作品については（資料1 基本方針2）、発表の場を拡充してもらえれば作家のモチベーションが上がるが、現在、各福祉施設が中心となって発表の場づくりや商品化などを行っていることが課題。福祉施設では人手も限られているし、マーケティングなどのノウハウもない。行政が主導して、企業のバックアップを得ながら進めていけるとよいと思う。

福井県中学校教育研究会 美術部会長

福井大学教育学部附属義務教育学校 後期課程 副校長 吉田 千春 氏

- ・ 全体的に、よくまとまっていると思う。現状と課題のところに、福井県の文化的環境が比較的充実している現状を追記したのもよい（資料1 5（3））。
- ・ 「基本方針7 文化芸術によるクリエイティブな経済の活性化」について、作品を作ることが好きな子どもたちは県内にも多いが、高校までは美術を学ぶことができるものの、県内にはその先が続かない。クリエイティブ産業が盛んになり、県内の一般的な企業でも、デザイナーやアーティストと関わる機会があるという姿が見えるようになると、福井で就職したいと考える子どもたちも増えてくるのではないか。
- ・ 基本方針6「国際的な文化交流の充実」について、福井市では「福井市小中学生国際交流作品展」を毎年開催しており、海外の子どもたちの作品を見る機会がある。県内でも各市町が海外の都市と友好関係を結んでいるので、県が支援をすることでこのような取組みを拡大できないか。
- ・ 基本方針3「次世代の育成」について、子どもたちを地域の文化の担い手として育成するためには、日常的に関わる機会をつくって、「続けたい」「残していきたい」という気持ちを持ってもらうことが必要。部活動の地域移行がこれから進んでいった時、地域に戻った子どもたちの受け皿として、民俗芸能など地域の文化に携われる機会が整備されているとよい。